

おいしさと健康

Glico

江崎グリコのルーツが見える



江崎記念館

The Ezaki Memorial Hall



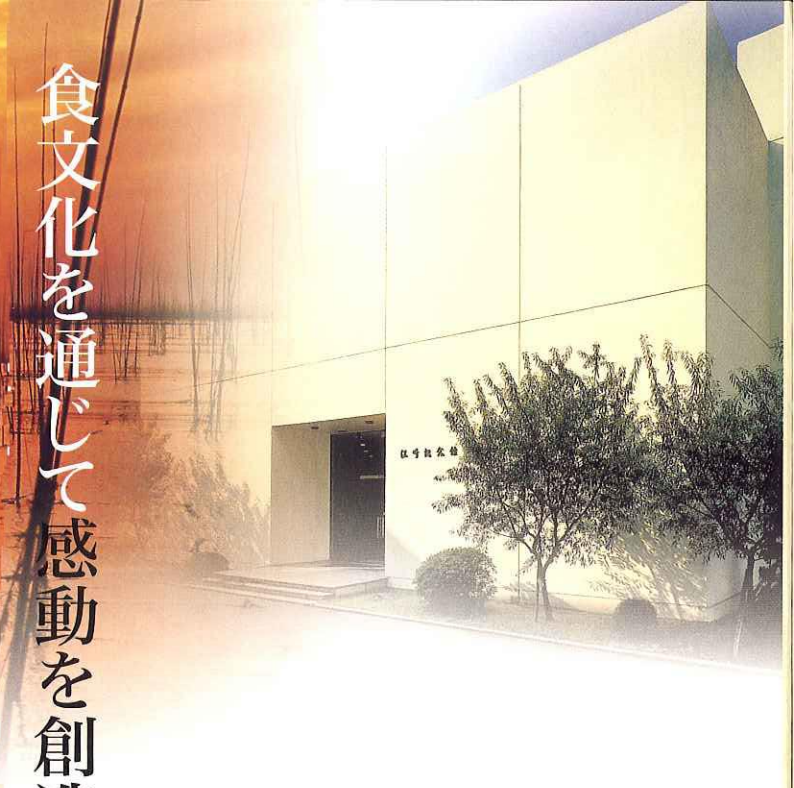
江崎グリコ株式会社



食文化を通じて感動を創造する

グリコの軌跡をたどる旅へ

本日は江崎記念館をお訪ねくださ
ましてありがとうございます。当館は
昭和47年3月、創立50周年記念事業
の一環として、従業員に創業の志を
伝え、社業の発展に寄与するため設
立したものです。館内には創業以来
の江崎グリコのあゆみに関する資料、
製品・販促品をはじめ、創業者江崎
利一ゆかりの品々を展示しております。
どうぞ、ごゆっくりご覧いただけますよ
うお願い申し上げます。



The Philosophy of Glico
「おいしさと健康」

おいしさの感動を
健康の歓びを
生命の輝きを

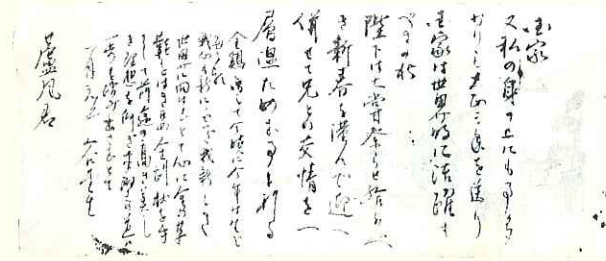
Glicoは、ハート・ヘルス・ライ
フのフィールドでいきいきとした
生活づくりに貢献します。



2 旧制茨木中学の頃

旧制茨木中学2年生の頃、作家を志す。創作を始めて、新聞社に投稿もして将来への野心を温める。

後に「十六歳の日記」として発表されたのは、中学3年生5月の、明日をも知れぬ祖父の看取りの日記である。



大正4年(1915年)1月元旦 康成中学3年(14歳)
祖父が亡くなった翌年、親友(盧風)にあてた賀状。文学への志を年頭の決意として述べている。署名の谷堂は亡父の号を用いたもの。

1 生い立ち一宿久庄での暮らし

両親と死別して二歳七か月で孤児となった康成は茨木市宿久庄の祖父母のもとで育てられることになる。

食も細く、ひ弱な康成は、祖父母に過保護なほどに大事に育てられて、外で遊ぶよりは本を読むことが好きな、内気なこどもであった。

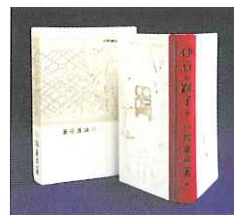
小学生となった年の9月に母代わりの祖母が亡くなると、眼の不自由な祖父との二人だけの生活は、一段とひっそりとして、読書でまぎらわす日々であった。



3 その文学と作品(戦前)

東大在学中に「招魂祭一景」で文壇に登場し、卒業後は新感覚派の新進作家として注目を集める。

掌編小説ともいわれる短編小説を数多く書き、「伊豆の踊子」で一躍有名になり、「浅草紅団」「雪国」と発表のたびに作家としての地歩を固めた。



「伊豆の踊子」(他9編)
昭和2年 金星堂

4 その文学と作品(戦後)

戦後は、日本の伝統的な美意識や自然観に自らの世界を深めて生まれた「山の音」「千羽鶴」「古都」などの他、「眠れる美女」「片腕」などが書かれた。



原稿「寒の櫻」(「山の音」の「島の夢」の章として発表)



「山の音」初版本
昭和29年 筑摩書房



昭和30年頃から、海外での日本文学の紹介が始まり、川端作品も「雪国」を初めとして、多くの作品が四十数か国語に翻訳、出版された。



5 ノーベル文学賞受賞



昭和43年(1968年)12月10日、スウェーデンのストックホルムでのノーベル賞授賞式。

受賞記念講演は「美しい日本の私」と題して、サイデンステッカーの同時通訳で行われた。

6 ふるさとの家

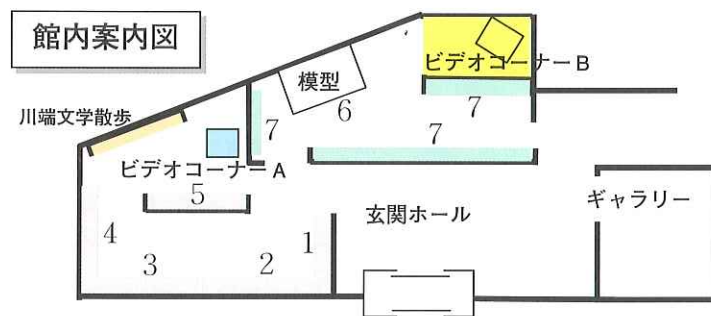
“小学生の頃から私は毎日のように、庭の木斛の樹上^{もっこく}で本を読んでいた。松の老木に次いで祖父が愛した庭木で、この木斛もかなり老木だった。そこが自分の巣であるかのように木の上にいた。……真夏の昼寝などはやはり庭の大きい檜の木陰で……、私は石の上に仰臥して檜の枝の蟬を聞いたり、眼を細めて葉のあいだの空を見たりしたのを覚えている。” (「故園」から)



祖父母と暮らした屋敷の模型(1/20)

7 テーマ展示

川端康成その人や文学につながる作家たちにも視野を広げて、3~4か月毎にテーマを設定し、館蔵資料を中心に展示を行っている。



川端文学散歩
川端文学に描かれた
茨木・大阪・近畿

ビデオコーナーA
「十六歳の日記」の舞台
「伊豆の踊子」の舞台
「雪国」の舞台
「古都」の舞台

ビデオコーナーB
川端康成を育んだ豊川の里
川端康成と茨木のまち
川端康成「ノーベル文学賞受賞—1968年—」
文学碑「以文会友」除幕式と
茨木市名誉市民推挙式



小学校時代の習字

小学校時代の
綴方清書帳





江崎グリコ株式会社 江崎記念館

〒555-8502 大阪市西淀川区歌島4-6-5

TEL.06-6477-8352 (申込方法・電話にて事前予約)

<http://www.glico.co.jp/kinenkan/>